

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価 (3月17日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①教育課程全体で学力や豊かな人間性、社会性の涵養を育み、グローバル人材を育成する。</p> <p>②次世代の学校教育を視野に入れた授業改善を継続する。</p>	<p>①世界への関心を深め、多様な存在について相互理解を深めようとする姿勢を培う。</p> <p>②バランスの取れた教育課程の実施に向け、魅力ある取組を行う。</p> <p>②よりよい授業の実践のための創意工夫を継続する。</p>	<p>①教科横断の取り組みにより、全ての科目においてグローバルな社会問題への関心を高めるための基礎学力の充実を目指す。ICTの一層の利活用を推進する。</p> <p>②話し合い活動を効果的に取り入れる授業実践や海外修学旅行などの行事、国内外の姉妹校との交流や留学生受入などの取組を行う。</p> <p>②教科の枠を超えた研究授業を実践し、授業改善のための研究協議を行う。</p>	<p>①生徒対象アンケートにおいて、グローバルな社会問題への関心が高まった生徒の肯定的回答の割合が指標の80%を超えたか。</p> <p>②話し合い活動を取り入れる授業実践や行事、国内外の姉妹校との交流や留学生受入などの取組を効果的に実践でき、アンケート等の結果に表れたか。</p> <p>②研究授業、研究協議を実践し、その成果を共有することができ、生徒のアンケート等の結果にも表れたか。</p>	<p>①生徒対象アンケートにおいて、グローバルな社会問題への関心が高まった生徒の肯定的回答の割合が指標に届かなかった。</p> <p>②話し合い活動を取り入れる授業実践や行事、国内外の姉妹校との交流を広げまた留学生受入などの取組を効果的に実践でき、広報活動を積極的に行うことで異文化理解が高まった生徒の割合は引き続き指標の80%を超えた。</p> <p>③電子黒板の導入によりICT活用もすすみ、研究授業及び研究協議を実践し、その成果を共有することができ、生徒のアンケート等でも昨年より成果を実感した生徒の割合が50%を超えた。</p>	<p>①グローバルな社会問題への関心を高めるために教科横断的な基礎学力の向上に向けて一層の努力が求められる。</p> <p>②広報活動や事前説明会を複数回実施し、また既存の姉妹校・交流校や新たな交流校も開拓することで、希望制による国際的な行事への参加数を大幅に増やすことができた。今後も継続して行う。</p> <p>③ICT機器を有効活用した授業研究の共有を継続していく。</p>	<p>・授業見学をして落ち着いているとの印象を受けている。グローバルの取組はさらに進めてほしい。そのため県からの支援は一層充実させてほしい。</p> <p>・中学校ではスマホを利用しながら授業を行うことは難しい。ICTの利活用はさらに進めてほしい。</p>	<p>①生徒対象アンケートにおいて、グローバルな社会問題への関心が高まった生徒の肯定的回答の割合が指標に届かなかった。</p> <p>②話し合い活動を取り入れる授業実践や行事、国内外の姉妹校との交流を広げまた留学生受入などの取組を効果的に実践でき、広報活動を積極的に行うことで異文化理解が高まった生徒の割合は引き続き指標の80%を超えた。</p> <p>③電子黒板の導入によりICT活用もすすみ、研究授業及び研究協議を実践し、その成果を共有することができ、生徒のアンケート等でも昨年より成果を実感した生徒の割合が50%を超えた。</p>	<p>①グローバルな社会問題への関心を高めるために教科横断的な基礎学力の向上に向けて一層の努力が求められる。</p> <p>②広報活動や事前説明会を複数回実施し、また既存の姉妹校・交流校や新たな交流校も開拓することで、希望制による国際的な行事への参加数を大幅に増やすことができた。今後も継続して行う。</p> <p>③ICT機器を有効活用した授業研究の共有を継続していく。</p>
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①生徒が集中して授業に取り組むことができる学習環境の整備と生徒の学習習慣確立を図る。</p> <p>②部活動や特別活動を通じた協調性及び人間性の向上を図る。</p>	<p>①生徒が安心して授業に集中できるよう教育相談体制の充実を図りつつ、きめ細かな生徒支援を行う。</p> <p>②部活動や特別活動における人格形成の重要性を共有し、生徒の主体的な活動を支援する体制を持続する。</p>	<p>①ケース会議や教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、SSWを効果的に活用し教育相談体制の充実を図る。</p> <p>②部活動や特別活動の活性化に向けて、生徒と共に考えながら、広報活動を充実させ、改善に向けた取り組みを継続的に発展させる。</p>	<p>①教育相談体制の充実を図ることができ、生徒による授業評価のアンケートで「集中して授業に取り組んだ」と回答する生徒の割合が増加したか。</p> <p>②部活動の加入率及び定着率が増加したか。また各部の活動が活性化を示す指標がアンケートや活動実績等から見られたか。</p>	<p>①サポートドックの結果から生徒への面談を実施することで安心感の構築を図り、週に1回の教育相談会議を通して、SC、SSW等専門職を活用した教育相談体制を充実させた。</p> <p>②部活動の加入率は前年度から7%増加し76%となった。部活動紹介・説明会の充実が加入率および定着率の上昇につながった。部活動の活性化については、一部の部活動において県大会以上の成績を収めていることから、活性化につながっていると認められる。</p>	<p>①今後も継続的にアンケートを用いて効果的な面談を実施し、専門職や外部機関と連携した教育相談体制の充実を図る。</p> <p>②部活動の加入率を80%以上に設定していることから、更なる加入率の増加を模索していく必要がある。部活動紹介の充実や仮入部期間の延長等の検討を加速させ、更なる加入率の増加に繋げていく。</p>	<p>・部活動加入の推進やサポートドックの活用など、今後とも取り組んでほしい。その際に教職員の負担増につながらないように様々な制度を活用していくようお願いしたい。</p> <p>・県からの支援が充実し特別活動全体が活性化するとよい。</p>	<p>①サポートドックの結果から生徒への面談を実施することで安心感の構築を図り、週に1回の教育相談会議を通して、SC、SSW等専門職を活用した教育相談体制を充実させた。</p> <p>②部活動の加入率は前年度から7%増加し76%となった。部活動紹介・説明会の充実が加入率および定着率の上昇につながった。部活動の活性化については、一部の部活動において県大会以上の成績を</p>	<p>①今後も継続的にアンケートを用いて効果的な面談を実施し、専門職や外部機関と連携した教育相談体制の充実を図る。</p> <p>②部活動の加入率を80%以上に設定していることから、更なる加入率の増加を模索していく必要がある。部活動紹介の充実や仮入部期間の延長等の検討を加速させ、更なる加入率の増加に繋げていく。その際インストラクターの活用などにより教職員</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(3月17日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
									収めていることから、活性化につながっていると認められる。	の負担増にならないよう留意する。
3	進路指導・支援	①自立した社会人となるための資質を育成する。 ②社会の趨勢を捉えた適切な進路支援を行い、進路希望の実現を図る。	①高大接続改革について情報を整理し、効果的な進路指導につなげるとともに、主体的な進路実現に向けた取組を継続する。 ②学習活動コンソーシアムや多様な体験活動等の取組により、主体的な進路選択のための支援を行う。	①外部との連携を深める。生徒の進路実現のための情報収集に注力し、適切なキャリアプログラムを作成し実施する。 ②ガイダンスや説明会、講習や補習の充実を図る。生徒の学習や進路についての相談体制を充実させる。	①国公立や難関私立大学(早慶上理、G-MARCH)などへの大学へ進学する生徒が増加したか。 ②将来の職業を見通して、進路(学校)選択をする生徒が増加したか。	①国公立や難関私立大学(早慶上理、G-MARCH)などの大学へ進学する生徒は減少した。 ②進路ガイダンスや上級校訪問などの機会を増やし、生徒の早い段階での進路決定を支援することができた。	①総合型選抜の選抜方法の多様化や、年内入試の増加という社会的背景を分析し、生徒のよりよい進路選択の実現の支援を行う。 ②職業と連動した進路選択については、より多くの情報を提供し選択できるように支援していく。	・生徒の進路選択のために多様な活動があることが望ましい。今後とも継続して取り組んでほしい。	①国公立や難関私立大学(早慶上理、G-MARCH)などの大学へ進学する生徒は減少した。 ②進路ガイダンスや上級校訪問などの機会を増やし、生徒の早い段階での進路決定を支援することができた。	①総合型選抜の選抜方法の多様化や、年内入試の増加という社会的背景を分析し、生徒のよりよい進路選択の実現の支援を行う。 ②職業と連動した進路選択については、より多くの情報を提供し選択できるように支援していく。
4	地域等との協働	①地域等との連携事業を通じた共感能力や協調性の育成、及び社会の形成者としての自覚と奉仕の精神の涵養を図る。 ②地域と連動した防災体制を確立する。	①実施可能な地域連携の形態を工夫する。 ②地域防災の観点から、地域における学校の役割を整理し、生徒の成長に資する活動について工夫する。	①地域貢献デーを実施する。 ①地域のお祭りに参加する。 ②地域の防災訓練に参加する。	①地域との継続的な関係を維持し、進展させることができたか。昨年度の生徒アンケートをもとに新たな貢献を模索し実践できたか。 ②地域防災につて、学校の役割を整理し、生徒の成長に資する活動について可能な範囲ですすめることができたか。	①地域貢献デーを例年通り実施できた。 ②地域で行われた様々な行事等に生徒が参加した。	①年間の通した地域貢献のあり方を模索する必要がある。 ②地域防災については、大和市の避難所になっているため、今後も連携を密にする必要がある。	・以前より自転車のマナーは良くなっているように思える。今後さらに地域との関わりを充実させてほしい。	①地域貢献デーを例年通り実施できた。 ②地域で行われた様々な行事等に生徒が参加した。	①年間の通した地域貢献のあり方を模索する必要がある。 ②地域防災については、大和市の避難所になっているため、今後も連携を密にする必要がある。
5	学校管理 学校運営	①適切な業務分担と進捗管理を行う。 ②学校の課題に対する意識の共有と協働体制を構築する。	①教職員の働き方改革を踏まえ、効率的で質の高い教育の展開に向け教職員組織の活性化を図る。 ②学校全体の事故防止等の課題に対する意識を職員全体で共有し、風通しの良い職場環境を構築する。	①残業をしない日を推進する。 ①職員室にコピー機を導入するなど、仕事がしやすい環境づくりを行う。 ②情報セキュリティ研修を実施するなど、事故不祥事防止に向けて課題を共有し学校全体で取り組む。	①業務分担と進捗管理が適切に行われ、職員のストレスチェックで、高ストレスを抱える職員の割合が10%未満であったか。 ②事故不祥事を防止するとともに、各職員の勤務時間に、著しい偏りがなく、時間外勤務や休日勤務を行う職員の割合が減少したか。	①職員のストレスチェック診断で、高ストレスを抱える職員の割合は5.5ポイント減の8.1%であった。県全体の平均値である12.8%より低かった。 ②事故不祥事防止会議等を通じて、職員全体で課題を共有し、職場環境の構築と時間外勤務を減らす取り組みを行った。時間外勤務の多い職員に関して産業医より助言を頂いたり、水曜日の「早く帰ろうキャンペーン」を昨年度より継続して実施したりした。	①時間外勤務や休日勤務時間が長時間となっている職員には、声掛けを継続するとともに、産業医との面談を行っていく。業務改善についてのアイデアを募り共有し各グループ学年等で検討の上取り組む。 ②事故不祥事防止について繰り返し課題共有を行いながら、職場環境の改善のアイデアを出し合いながら共有して取り組む。衛生委員会も活用し、産業医の協力を得ながら全体で取り組む。	・一定数高ストレス者がいることは学校だけでなく県全体でも支援が必要である。働き方改革を勧めながら職員のストレス軽減と生徒との関わりを増やすことを目指して取り組んでほしい。 ・事故不祥事防止については、継続して取り組んでほしい。	①職員のストレスチェック診断で、高ストレスを抱える職員の割合は5.5ポイント減の8.1%であった。県全体の平均値である12.8%より低かった。 ②事故不祥事防止会議等を通じて、職員全体で課題を共有し、職場環境の構築と時間外勤務を減らす取り組みを行った。時間外勤務の多い職員に関して産業医より助言を頂いたり、水曜日の「早く帰ろうキャンペーン」を昨年度より継続して実施したりした。	①時間外勤務や休日勤務時間が長時間となっている職員には、声掛けを継続するとともに、産業医との面談を行っていく。業務改善についてのアイデアを募り共有し各グループ学年等で検討の上取り組む。 ②事故不祥事防止について繰り返し課題共有を行いながら、職場環境の改善のアイデアを出し合いながら共有して取り組む。衛生委員会も活用し、産業医の協力を得ながら全体で取り組む。